様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 ２２ 日現在

機関番号：３４４０６
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2016～2017
課題番号：１６Ｈ０７３４６

研究課題名（和文）尼門跡の文芸活動に関する基礎的研究―『源氏物語』享受を中心として―

研究課題名（英文）Fundamental research of literature in Buddhist nunneries during Early Modern period - Focusing on Receiving the Tale of Genji-

研究代表者
横山　恵理（YOKOYAMA, Eri）

大阪工業大学・情報科学部・講師

研究者番号：７０７８１４２５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,500,000円

研究成果の概要（和文）：尼門跡寺院伝来作品のうちから、『源氏物語』享受史のなかに位置づけられる作品を選び、そこに描かれる女性像の変容の分析を通して、尼門跡寺院における物語享受の実態や、その女性像に時代や社会がいかに反映したかについて検討した。
本研究では、尼門跡寺院伝来作品の制作に関与した可能性が高い近世天皇家の尼門跡に対する文芸活動の実態解明を目指した。また、尼僧自身が制作者あるいは書写者となった作品を取り上げ、『源氏物語』享受と仏教信仰の観点から、それぞれ分析した。尼門跡寺院伝来作品を、制作者・書写者・享受者それぞれの視点から捉え直し、尼門跡寺院における文芸活動の実態解明に努めた。

研究成果の概要（英文）：I investigated to clarify the actual condition of enjoying stories in Buddhist nunneries through analysis of the transfiguration of female statues focusing on receiving the Tale of Genji-. I tried to elucidate the actual situation how Emperor of the modern era involved to the productions of Buddihist nunneries. On the other hand, I analyzed the productions written by nun focusing on receiving the Tale of Genji and Buddhist beliefs. I tried to rethink the productions of Buddhist nunneries from viewpoint of the producer,copier and recipient.

研究分野：人文学

キーワード：尼門跡　源氏物語享受　曇華院　法華寺　絵巻　なよ竹物語　七草絵巻　恋路ゆかしき大将

１．研究開始当初の背景

近年、尼門跡をめぐる研究は急速に注目を浴びつつあるが、いまだその具体的な種々の様相の分析は十分になされたとは言い難い状況である。尼門跡研究は、バーバラ・ルーシュ氏（ペンシルバニア大学）によって開設された中世日本文化研究所（京都、女性仏教文化史研究センター）によって切り開かれ、また、尼門跡を室町期の文芸サロンと位置づけた恋田知子氏の論（『仏と女の室町　物語草子論』2008）が先駆的研究として挙げられる。しかしながら、尼門跡寺院に今なお保存されている蔵書や絵巻物の実態は明らかになっていないうえ、尼門跡に伝来する作品内容の具体的な考察も十分に進んでいない状況である。

一方、天皇・親王家の子女が入寺した尼門跡では、『源氏物語』の知識はなくてはならない基礎的教養であったはずである。『源氏物語』の受容・享受は、ことに近年、かつて『源氏物語』の亜流、模倣として低い価値しか認められなかった鎌倉期から室町期を中心とした諸作品のうちに、いかに『源氏物語』を典拠として作者、読者の共有する基盤としながら、それを「ずらし」、重層的な「読み」を現出させうるかという受容史的観点から、時期を同じくする注釈行為とも重ねつつ、平安時代文学を研究する研究者の集まりである中古文学会などでも、中心的な研究課題として認められつつあるものである。今後、尼門跡伝来作品に対し、『源氏物語』享受の側面から分析することが必要不可欠と考える。

報告者は、尼門跡寺院伝来作品のうちから、『源氏物語』享受史のなかに位置づけられる作品を選び、そこに描かれる女性像の変容の分析を通して、尼門跡寺院における物語享受の実態や、その女性像に時代や社会がいかに反映したかについて検討してきた。具体的には、京都・曇華院門跡蔵『なよ竹物語絵巻』（横山、2007）（横山、2012）、京都・大聖寺門跡で書写された可能性が高い『恋路ゆかしき大将』（横山、2014）、奈良・法華寺門跡蔵『七草絵巻』（横山、2012）を取り上げ、制作背景を含めつつ考察を行った。

特に、曇華院蔵『なよ竹物語絵巻』および法華寺蔵『七草絵巻』の制作には後西天皇（1638～1685）が関与した可能性が高く、今後、近世天皇家における文芸活動全体を見通しながら検討を行うことが必須である。また、『恋路ゆかしき大将』の書写者は大聖寺門跡の第六世、すなわち尼僧であることが史料から推測され、書写者としての文芸享受の有り様についても考察を進める必要がある。

尼門跡伝来作品の研究には、各作品の制作背景として推定される天皇家・親王家の関与や、書写者あるは読者として推定される尼門跡に入寺した女性と作品内の仏教的内容との関わりを含め、さらなる考察を行うことが必要不可欠と考える。また、個別の事例の検討を重ねることで、尼門跡寺院全体の物語享受の実態解明に努めたい。

２．研究の目的

本研究では、具体的に以下の３点のテーマを設定し、尼門跡における文芸享受の実態を明らかにする。

(1)　近世天皇家とその周辺による文芸活動のうち、尼門跡に対して行われた活動内容を解明する。

(2)　曇華院門跡関連史料の調査・翻刻・考察を行い、尼僧による文芸作品の生成の実態を明らかにする。

(3)　尼門跡伝来作品（特に『恋路ゆかしき大将』）について、その成立を明らかにするとともに、『源氏物語』享受の観点に加え「女性と仏教との関わり」という視点も交えつつ考察を行う。

本科学研究費の助成期間中に、近世天皇家の尼門跡に対する文芸活動の実態を解明することを目指す。また、尼僧自身が制作者あるいは書写者となった作品を取り上げ、『源氏物語』享受と仏教信仰の観点から、それぞれ分析する。

３．研究の方法

本研究では、近世期の尼門跡寺院における文芸活動の実態を明らかにする。まず、曇華院門跡蔵『なよ竹物語絵巻』の詞書筆者を特定することで、近世天皇家とその周辺による文芸活動の解明を試みた。

また、江戸時代の尼僧によって制作された漢詩集『曇華集』を翻刻・注釈し、五山文学の影響や近世天皇家における物語講釈との関連を視野に入れつつ考察を行った。

さらに、尼門跡で書写された可能性が高い『恋路ゆかしき大将』について、『源氏物語』享受の観点に加え、「女性と仏教信仰」という観点からも考察し、尼門跡で書写された本文の特異性を明らかにした。

各作品の調査過程で本研究に関わり、重要視すべき課題を含むと判断された作品については、個別に考察を加え、適宜、発表・報告を行った。

４．研究成果

第一に、曇華院蔵本『なよ竹物語』絵巻詞書筆者について、近世「源氏絵」の詞書や「古筆手鑑」を調査して、全十一人の筆者の特定を試みた。近世「源氏絵」の詞書調査には、京都国立博物館、和泉市久保惣記念美術館等の各所蔵機関、および個人所蔵の「源氏絵」を実見する必要がある。閲覧許可が得られた作品、および刊行物の調査を通して筆跡を特定し、平成 30 年秋に研究成果公開を行う予定である。

また、調査過程において、同作品の絵師を

特定する考察も行った。近世期の古記録（『基熙公記』、『无上法院殿御日記』、『葉室頼業記』等）を利用し、作品の詞書筆者、絵師、注文主の関係を精査することで明らかとなった、近世天皇家を中心とした文芸組織についてもあわせて研究成果公開を行う予定である。

第二に、尼門跡で書写された可能性が高い『恋路ゆかしき大将』について、『源氏物語』享受の観点に加え、「女性と仏教信仰」という観点からも分析し、尼門跡で書写された本文の特異性を考察した。また、巻一～巻四と巻五との間に、制作主体の差違がある可能性も指摘した。

まず、巻一に登場する法輪寺という実在する寺院について考察を行った。巻一では『法輪寺縁起』を踏まえつつ特異的に描かれるのに対し、巻五ではその言及が消失してしまう。また、法輪寺は開山当初より女性の信仰が篤いことと、『恋路ゆかしき大将』が鎌倉期には成立していたことを考え合わせると、鎌倉期の仏教と女性の信仰の問題が浮かび上がってくる。そこで、奈良時代から江戸時代までの法輪寺のイメージの変遷を分析し、本作品が法輪寺を舞台として選び取った理由を考察した（『狭衣物語―文学の斜行―』翰林書房、2017 年、分担執筆）。

また、本問題に関しては、法輪寺の本尊である虚空蔵菩薩に対する信仰の問題が新たに浮かび上がってきた。そのため、本作品成立時期およびそれ以前の法輪寺信仰について調査を行った。史料より、法輪寺信仰が明らかな人物を特定し、その人間関係が示す特徴を考察しつつ、本作品の制作者像に迫る試みを行った。

同時に、巻一の法輪寺参詣時に男君たちが詠んだ「星の光」詠の分析も行った。本作品成立時期およびそれ以前の和歌史において「星の光」が詠み込まれる用例は極めて少ない。そのため、巻一所収歌の分析を通して、本作品が描き出そうとした作品世界や制作背景に迫ることが可能となる。

上記、法輪寺信仰および「星の光」詠の各分析を通し、制作背景を考察した（「『恋路ゆかしき大将』巻一の制作背景をめぐって―法輪寺と「星の光」詠を手がかりに―」、日本文学協会第 38 回研究発表大会、2018 年 7 月発表予定、於金沢大学）。

第三に、法華寺蔵『七草絵巻』について、江戸時代の文芸活動の大きな枠組みに位置づけ直した考察を行った。

『七草絵巻』は、楚の「大しやう」という男が年老いた両親の若返りを求めて仏神に祈ったという内容から孝行譚として、また、正月七日に七草を摘むという内容から祝儀物として位置づけられる作品である。

報告者は、かつて法華寺蔵本の絵と詞書の分析を行い、巻末詞書に仏教的説法に近い内容を有する点、本文に教養書としての性格が窺える点、諸本の図様と比較して装飾効果が高い点という 3 点から尼門跡で享受されるのに相応しい作品として享受されていたことを推測した（「法華寺蔵『七草絵巻』の絵と詞書」、2012 年 9 月奈良絵本・絵巻国際会議編『奈良絵本・絵巻研究』第 10 号、2012 年 9 月、1～16 頁）。

しかし、本作品は、男が両親へ孝行の徳を尽くすという内容であるうえ、法華寺蔵本は他の諸本と比べると、男が親孝行である点、および、親子の情愛の深さを強調して記す本文を有しており、孝行譚としての側面にも目を向ける必要がある。さらに、男が帝から帝位を譲られ、皇女と結婚するという内容は、『二十四孝』で取り上げられる舜の孝行譚と類似する。

そこで、『七草絵巻』を孝行譚として位置づけ直し、『二十四孝』系説話と比較しつつ作品内容の特徴を明らかにした。『七草絵巻』、『二十四孝』ともに御伽草子として享受されていたことも視野に入れつつ、法華寺蔵本の制作背景および尼門跡である法華寺への伝来事由についても考察を行った（第 41 回国際日本文学研究集会、2017 年 11 月 11 日～12 日、於国文学研究資料館）。

さらに、尼門跡において尼僧自身が制作した漢詩が収められている、曇華院蔵『曇華院集』の翻刻（「［翻刻］曇華院蔵『曇華院集』」、『大阪工業大学紀要』第 61 巻第 1 号、2016 年 9 月、66～78 頁）に関連して、同じく曇華院が所蔵している『通玄和尚語録』の翻刻を行った（『大阪工業大学紀要』第 61 巻第 2 号、2017 年 1 月）。

これら二作品については、近世天皇家における物語講釈や五山文学との関連を視野に入れつつ注釈を施し、尼門跡寺院において尼僧が作品制作に関わった例として考察を続ける。

以上のように、尼門跡寺院伝来作品について、制作者・書写者・享受者それぞれの視点から考察を行い、尼門跡寺院における文芸活動の実態解明に努めた。今後、さらに研究を深化させ、研究成果公開に活かす予定である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 0 件）

〔学会発表〕（計 1 件）

横山恵理「法華寺蔵『七草絵巻』考 ―孝子譚の側面から―」第 41 回国際日本文学研究集会、2017 年 11 月 11 日～12 日（於、国文学研究資料館）

〔図書〕（計 1 件）

横山恵理「『恋路ゆかしき大将』における法

輪寺－文学作品に見えるイメージの斜行－」（井上眞弓編『狭衣物語－文学の斜行－』翰林書房、2017 年、分担執筆、297～316 頁）

〔その他〕（計 1 件）
横山恵理「研究ノート［翻刻］曇華院蔵『通玄和尚語録』」（『大阪工業大学紀要』第 61 巻第 2 号、2017 年 1 月、38～46 頁、査読無）

６．研究組織
(1)研究代表者
横山　恵理（YOKOYAMA,Eri）
大阪工業大学・情報科学部・講師
研究者番号：70781425